

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) JFEケミカル株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 111-0051 東京都台東区蔵前2丁目17番4号JFE蔵前ビル4階	
本票作成	部署名：西日本製造所 安全環境管理室				
主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業		
事業の概要	・事業内容；コールタールの蒸留及び化学製品、無機材料の研究、開発、製造および販売 ・従業員；342名(令和7年7月現在)・タール蒸留量；329.9千t/年				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	笠岡工場		岡山県笠岡市鋼管町9番2	
	②	倉敷工場		岡山県倉敷市水島川崎通1丁目	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 2 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 5 年度)	(令和 6)年度排出量	目標年度(令和 6 年度)
	155,982 t CO ₂	148,846 t CO ₂	154,422 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和 6)年度排出量
	①	笠岡工場	85,906 t CO ₂
	②	倉敷工場	62,940 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間： 令和 6 年度 ～ 令和 6 年度 (1 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(6)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	0.9 %	1.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 設備別の補正挿入量の合計	原単位当たり排出量		
		基準年度	(6)年度	目標年度
		233.55 t CO ₂ /(千t)	231.51 t CO ₂ /(千t)	231.22 t CO ₂ /(千t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和 6 年度)	達成率等
指標の状況				

【削減状況の自己評価】

(1)笠岡工場は、製品構成の変化により、CO₂排出量原単位は改善した。
(2)倉敷工場は、タール生産量の減少により、CO₂排出量原単位が少し増加した。
上記(1)、(2)により、令和6年度の両工場合わせたCO₂排出量原単位は231.51(CO₂t/千t)となり、対基準年度のCO₂排出量原単位 1%削減の目標に対し、0.9%削減の若干未達となった。来年度からは、新たな目標値に向けて目標達成できるよう取り組んでいきたい。

【推進体制】

半期毎の予算編成時に省エネの管理部署(総括室)が各部署の省エネテーマを吸い上げ計画を策定し、実行をフォローしている。毎月、製造所長・総括室長・各工場長以下のメンバーで開催される生産会議及び環境管理委員会において、各テーマの進捗状況について担当部署が報告を行い、フォローしている。(両工場ともISO14001を取得済み)

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
笠岡工場	(2024年度実施分) ・ 並列運転ポンプの片側運転化 (今後実施予定分) ・ 窒素コンプレッサーの運転時間削減
倉敷工場	(2024年度実施分) ・ 不純物除去回数の削減による工程省略 ・ 熱交換器の伝熱面積最適化による省蒸気 ・ 自動制御化による生産時間短縮 (今後実施予定分) ・ 蒸気ドレン回収 (脱QIタンク) ・ 断熱強化による省電力 (無水タール製造設備) ・ 断熱強化による省蒸気 (リンス液処理設備)

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】